

様式第 2 号（8 関係）

会 議 録

| | |
|---|---|
| 会 議 の 名 称 | 平成 2 9 年度第 2 回ひたちなか市環境審議会 |
| 開 催 日 時 | 平成 3 0 年 2 月 2 0 日（火） 1 4 時 0 0 分～ 1 5 時 3 0 分 |
| 開 催 場 所 | ワークプラザ勝田 研修室（2） |
| 出 席 者 | 委員（者）氏名 蝦名会長，半田副会長，間瀬委員，黒澤（由子）委員， 入野委員，小島委員，高橋委員，佐々木委員，黒澤委員， 柳生委員，菊地委員，関口委員，栗原委員 |
| | 担当部課職員職氏名 稲田修一経済環境部長 川崎誠司環境保全課長 桐原隆史同課課長補佐 小沼満同課環境対策係長 布施孝行同課環境保全係長 黒沢俊彦同課環境保全係主事 岩朝貴史同課環境対策係主事 |
| 会 議 次 第 及 び 会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別 | 平成 2 9 年度第 2 回環境審議会次第 1 開会 2 部長挨拶 3 会長挨拶 4 議事 （1）報告事項 ・ひたちなか市環境報告書（平成 2 8 年度実績）について （2）審議事項 ・ひたちなか市第 3 次エコオフィス計画の策定について （3）その他 5 閉会 |
| 非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合) | |
| 傍 聴 者 の 数 | 1 名 |
| 会 議 資 料 の 名 称 | No. 1 ひたちなか市環境報告書（平成 2 8 年度実績） No. 2 ひたちなか市環境報告書（平成 2 8 年度実績） 説明資料 No. 3 ひたちなか市第 3 次エコオフィス計画（案） No. 4 ひたちなか市第 3 次エコオフィス計画（案） 説明資料 |
| 会 議 録 の 作 成 方 法 | 要約方式 |
| そ の 他 | |

審議内容（発言者，発言内容，審議経過，決定事項等）

| | |
|-----|--|
| | 平成29年度第2回ひたちなか市環境審議会 |
| 事務局 | 1 開会 |
| 事務局 | 2 部長挨拶 |
| 会長 | 3 会長挨拶 →蝦名会長より挨拶があった。 |
| 事務局 | 4 議事 (1) 報告事項 ひたちなか市環境報告書（平成28年度実績）について →パワーポイントを使用し報告した。 |
| 委員 | ～以下質疑～ 環境基準が達成できていない項目について，対応策等はどう考えているのか。 |
| 事務局 | 原因が，事業所によるもの等，具体的に特定できた場合は，事業所への指導等の対応をしている。 一方，現在，水質改善に取り組んでいる早戸川では，環境基準値超過の原因を究明するため，調査地点を増やし詳細調査を行っているが，今のところ具体的な原因の究明はできていない。市としては，しっかりと監視観測をしたうえで，原因が特定できれば，原因者への指導等を行うとともに，河川の管理者と連携しながら，水質改善に向けて取り組んでいきたいと考えている。 |
| 委員 | 早戸川の問題については，地域の方に理解してもらわないといけない。啓発チラシを作成したとのことだが，定期的にBODの数値等を知らせていく必要があるのではないか。 |
| 事務局 | 早戸川の水質悪化については，市報を通じて市民にお知らせをしており，地域への情報発信では，二中学区の環境部会や市毛小学校を対象とした出前講座を開催している。また，地域の団体である津田げんき会とともに自然観察会等の環境学習活動にも取り組んでいる。このように，地域のコミュニティ等と連携しながら，取り組みを推進することで，地域の活動の環が広がっていければと考えている。 |

| | |
|-----|--|
| 会長 | <p>環境報告書の中の、経年推移の結果に係る文章において、『上昇傾向がある』といった表現があるが、『環境基準を達成している』という表現の文章を入れたほうがいいのではないか。また、雨水調査の結果に係る文章では、『一般に酸性雨といわれるpH5.6を下回っていました』と表現しているが、下回っているということは、より酸性であるということなので、結果の文章としては、表現が違うと思う。</p> |
| 事務局 | <p>環境報告書の中で、環境基準を満たしているが、傾向として数値が上昇している結果については、上昇傾向という表現で表している。審議会の説明にあたっては、環境基準の達成有無ということで説明を行った。</p> <p>環境基準は、環境基本法の中で、人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましい基準として定められており、これを達成するために、水質であれば、事業所排水に規制値が定められている。環境基準が一時的に達成できていない状況であっても、直ちに人体等への影響はないと考えられるが、環境基準が達成できるよう努めていきたい。</p> |
| 事務局 | <p>(2) 審議事項 ひたちなか市第3次エコオフィス計画について →パワーポイントを使用し説明した。</p> <p>～以下質疑～</p> |
| 副会長 | <p>第3次エコオフィス計画の対象となる事務事業の中に、水道事業は含まれているのか。水道事業は、電気使用量が多く、温室効果ガス排出量が大きい傾向にある。</p> <p>第3次エコオフィス計画における推進体制作りはうまくいっているのではないかと思う。</p> <p>今回の計画を、より実効性のある取り組みとするために、まずは、競争意識を醸成させる必要があると思う。例えば、庁内の取り組み実績をグラフ等で『見える化』し、情報を共有することが挙げられる。また、取り組みにより、電気代等の費用を削減できた分だけ、予算に反映できるような仕組み作りも必要だと思う。加えて、庁内表彰制度により、インセンティブを与えるような制度も必要ではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>計画の対象に、水道事業は含まれている。</p> <p>水道事業の中でも、那珂川からの取水施設は、重油等のエネルギー消費量が多い。施設は老朽化しているが、最新の施設に更新すれば、エネルギー消費量を抑えることができると考えられる。水道事業所は、公営企業になるので、水道使用料を収入として得て、設備を整えており、費用対効果がない投資は、使用者に対して説明が難しい部分もある。</p> <p>水道事業所としては、節電によく取り組んでおり、また、保有している公用車のほとんどが、軽自動車である。今後、温室効果ガス総排出量を約40%削減するということを考えると、さらに環境を意識した取り組みが必要である。現在で</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>は、市毛の浄水場の施設を更新しているところであり、太陽光発電設備が設置されることとなっている。</p> <p>公用車のエコドライブを推進していくうえで、燃費の『見える化』は必要であると考えており、燃費が向上した課を表彰することについても、内部で検討しているところである。車が更新されれば、燃費は上がるので、比較が難しい等の課題はあるが、インセンティブを与えるような取り組みについては、頂いた意見を参考にしながら検討していきたい。</p> |
| 副会長 | <p>他市の例を紹介すると、財務会計と燃料代のデータがリンクされているため、環境部門が、燃料使用量を計算しなくても、財務会計システムにより、各課の燃料使用量が把握できるような仕組みになっている。このような仕組みもあるので、参考にしてみてもどうか。</p> |
| 委員 | <p>ごみの削減の取り組みの1つとして、水道水を飲料水としてペットボトルに入れることによるペットボトル再利用を提案する。</p> <p>水道水は、市販のミネラルウォーターよりも多くの水質基準をクリアしている。また、ミネラルウォーターは、1本500mlあたり約100円であるが、水道水は、同じ500mlでも0.09円であり、経済的でもある。</p> <p>市の模範的な取り組みとして、水道水を飲料水として、飲むという取り組みがあってもいいのではないかと考える。</p> |
| 事務局 | <p>エコオフィス計画上の取り組みではなくても、環境にいいことは、積極的に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>水道水を飲料水として飲むという取り組みについては、水道事業所に働きかけていきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>事業所の中で、環境委員を務めたことがあるが、10%削減するだけでも、非常に大変である。</p> <p>計画の中で、様々な取り組みがあるが、各部門に1年毎の数値目標を設け、毎年、検証していかなければ、最終目標の約40%削減は難しいのではないかと。</p> |
| 事務局 | <p>最終的には、約40%削減という目標であるが、まずは、短期目標の約15%削減を目指し、1年毎に約3%ずつ削減することを、1つの目安として取り組んでいきたい。</p> <p>第2次エコオフィス計画の実績において、温室効果ガス総排出量の各年度の削減率と、当該年度の取り組み（エレベーター更新、エアコン更新、太陽光発電設置等）を照らし合わせると、どのような取り組みにより、どれくらい削減ができるかは、ある程度推測できるので、これまでの取組実績を参考にしながら、第3次エコオフィス計画でも取り組んでいきたい。</p> |

| | |
|---|---|
| 委員 | <p>学校において、エコな取り組みを進めていくにあたり、現在、学校でどれくらいの電気が使用されているのか、また、目標として、どの程度まで削減すればいいか等の指標を設定しないと、具体的な対応・対策することが難しい。</p> <p>今後、小中学校の集まりがあるので、その中で、提案を試みようかなと思う。</p> |
| 委員 | <p>再生可能エネルギーの導入について、太陽光発電を推進していくとのことであるが、電気使用量や温室効果ガス排出量を算出するにあたり、太陽光発電は、どのようにカウントするのか。</p> |
| 事務局 | <p>電気使用量は、電気事業者から購入した量のことなので、市役所で発電した電気量は、電気使用量としてカウントはしない。</p> <p>温室効果ガス総排出量は、『電気使用量』と、購入元の電気事業者の発電方法により決まる『排出係数』を、計算することで算出される。例えば、電気事業者が、太陽光発電だけで発電しているのであれば、『排出係数』はゼロとなる。このように、温室効果ガス総排出量は、『排出係数』に大きく依存するので、評価の観点で見れば、電気使用量にも目標値を設定して、取り組んでいきたいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>職員の啓発について、家庭でのエコな取り組みの推進を入れてみてはどうかと思う。環境省の地球温暖化対策実行計画の目標において、『業務その他部門』では、約40%削減とされているが、『家庭部門』では、約39%削減とされている。『家庭部門』の目標に向けて、一人ひとりの取り組みが大切であり、そのためには、職員が家庭においても率先してエコな取り組みをしていく必要がある。</p> <p>県では、いばらきエコチャレンジWEBや、いばらきエコスタイル等、様々な取り組みをしており、PRをしているので、参考にさせていただければと思う。</p> |
| 会長 | <p>ひたちなか市第3次エコオフィス計画（案）については、事務局案を了承ということで、審議を閉めたいと思う。</p> <p>(3) その他</p> |
| 事務局 | <p>5 閉会</p> |
| <p>以上、会議の内容に相違ないことを証明する。</p> <p style="text-align: right;">平成30年2月25日</p> <p>平成29年度第2回ひたちなか市環境審議会 会長 蝦名 不二夫</p> | |